

小・中学校

平成 4 年 度

# 教育研究員研究報告書

へき地教育

東京都教育委員会

平成4年度

### 教育研究員名簿

市町村名	学 校 名	氏 名
八王子	浅川小学校	○金畑昭正
青梅	第1小学校	△吉川周一
青梅	第6中学校	西川 聡
瑞穂	瑞穂第四小学校	市村教子
五日市	小宮小学校	小林悦雄
檜原	檜原中学校	岸 毅
奥多摩	氷川小学校	◎松田 貢
奥多摩	小河内小学校	小山夏樹
奥多摩	小河内中学校	屋富祖 弘
大島	第一中学校	佐藤勝人

◎ 全体世話人

○ 副世話人

△ 全体記録係

担 当

東京都多摩教育事務所西多摩支所

指導主事

石倉敏雄

”

清水健一

# 目 次

I	主題設定の理由	2
II	主題に迫るための基本的な考え方	3
1	研究のねらい	3
2	研究推進の視点	4
III	研究の全体構想	5
IV	研究の内容	6
	実践事例・その1 地域の歴史調査や発表活動を通して、表現力を高めるための指導の工夫	
	・小学校第6学年社会科「武士の世の中」	6
	実践事例・その2 発表する機会をつくり、コミュニケーション能力を育成する指導の工夫	
	・中学校第1学年英語科「ジャックと話そう」	9
	実践事例・その3 体験的な活動を生かして、郷土を愛する心を育てる指導の工夫	
	・小学校第6学年道徳「立ちのき」	12
	実践事例・その4 ボランティア活動を通して、郷土愛や社会性を育てる指導の工夫	
	・中学校全学年「心身障害福祉施設、養護老人ホームでのボランティア活動」	15
	実践事例・その5 地域の商店やスーパーマーケットの観察・調査を生かして、表現力を伸ばす指導の工夫	
	・小学校第3学年社会科「商店街と人々の暮らし」	18
	実践事例・その6 筋道を立てて分かりやすく発表するための指導の工夫	
	・中学校第1学年国語科「新しい体験を」	21
V	研究のまとめと今後の課題	24

## 研究主題 体験的な活動を生かし、一人一人の豊かな自己表現力を伸ばす指導の工夫

### Ⅰ 主題設定の理由

#### (1) 社会の変化に主体的に対応できるために

本研究部会では、東京の西部山間・島しょ地域における地域の特性や、児童・生徒の実態を把握するとともに指導上の課題を明らかにし、その解決を目指して研究を進めてきた。これらの地域では、人口の流出現象による過疎化等によって地域の生活にも変容が見られる一方で、情報化等の進展によって様々な情報が直ちに得られるようになってきた。このような環境の変化は、児童・生徒の生活意識や行動にも変化を生み出している。例えば、豊かな自然や伝統文化に恵まれていながらこれらと直接触れ合う体験の不足や、テレビ視聴等により、居ながらにして情報を得るといった受動的な生活態度となって現れている。そのために、直接的な体験によって身に付く問題解決的な能力が育ちにくくなっているという現状がある。一方、これからの社会では、これまでの経験や予想を超えた事態に直面したりする場面も多くなってくると思われる。このような社会の変化に主体的に対応していくために必要な資質や能力を育てる必要がある。そのために、地域の特性をふまえた体験的な活動を生かしながら、児童・生徒の多様な考えや主体的な取り組みを重視するとともに、児童・生徒のよさを引き出す教育活動を展開することが重要であると捉えた。

#### (2) 豊かな心や社会性を育てるために

学校においては、児童・生徒一人一人の豊かな心や社会性の育成が求められており、本研究部会では自己表現力の育成と結び付けて研究を進めてきた。児童・生徒の自己表現力は、年齢や発達段階、更には今までの成長の過程における様々な体験等によっても異なると考えられる。そこで、児童・生徒一人一人の豊かな自己表現力を伸ばすための教育活動を創意・工夫して取り組むこととした。例えば、自然との関わり、人との関わり、地域社会との関わり等を通して感動体験を味わわせる指導法を工夫する等、豊かな心や社会性の育成に視点を当ててきた。特に感動体験を通して、自分の思いを相手に伝える力を育てることによって、豊かな自己表現力を伸ばすことができると考えた。そのために、発表の機会や場を設定して、多様な表現への意欲を高める必要がある。豊かな表現力を養うためには、安心して表現できる環境作りや多様な表現技能を重視したり、温かい励ましと称賛、更に指導者の適切な支援や援助等も本研究部会の課題であると捉えて、標記の研究主題を設定した。

## II 主題に迫るための基本的な考え方

### 1 研究のねらい

(1) 自分の思い（感動・思考・判断）を言葉によって相手に伝えることができる力を育てる。

児童・生徒の自己表現力を育てるためには、主体的に学習に取り組もうとする積極的な姿勢を育てる必要がある。子どもは元来、「こうしたい」「こうしてみよう」という意欲をもっており、事象に対する一人一人の多様な見方や考え方はそれぞれ個性的なものであると考える。

しかし、現在のような少子社会においては、幼少時からテレビ等の間接体験で充足するという受け身の生活体験が多くなり、自己の体験に基づいた自分なりの表現を伸ばしていくことが難しいという状況もある。このことは、自然や伝統文化に恵まれ、直接体験のできる条件が整っている西部山間や島しょで育つ児童・生徒においても共通の課題である。

生涯学習が重視されている今日、他の指示を待ち、他に依存する学習の繰り返しだけでは、学ぶ喜びを感得することはできない。ましてや自ら学習課題を見つけ、それを解決しようとする意欲を生むことは期待できない。自ら課題意識をもち、自ら解決する努力をし、自ら表現しようとする姿勢を育てることが生涯を通して真に生きて働く力になると確信するものである。

そこで、本研究のねらいを「自分の思い（感動・思考・判断）を言葉によって相手に伝えることができる力を育てる」と設定した。

### (2) 研究の仮説

児童・生徒が学ぶ意欲を持ち、主体的に学習するためには、まず、感動や共感を呼ぶ教材の選択や開発が必要になる。それは、教材との関わりを通じて、初めて児童・生徒の興味・関心が喚起され、一人一人の学習課題が明確になるからである。

また、児童・生徒自らが主体的に課題解決できる場や機会をできるだけ多く設定するような指導計画や指導内容、方法の工夫を心がけることも必要である。そこで課題解決を目指す学習の過程において、一人一人が自ら調べたことや考えたことを発表することにより、課題解決への意欲や表現力の向上が図れると考えた。

このような考え方から、次のような仮説を設定した。

<仮説1> 感動や共感を呼ぶ教材を開発したり、工夫したりすれば、学習で得た感動を相手に伝えたいという欲求が高まり、自ら積極的に表現するであろう。

<仮説2> 課題解決的な学習を通して、発表の機会や場を与えれば、より効果的な表現を工夫するであろう。

## 2 研究推進の視点

### (1) 感動や共感を呼ぶ教材の開発と工夫

児童・生徒はその成長の過程で、自分が生まれ育った地域の自然を美しいと感じたり、祭りや地域の行事に参加したりして、文化や伝統に触れ、仲間とともに様々な体験を重ねながら、生活習慣をはじめ、物の見方や考え方等を身に付けていく。そこで、体験的な活動を通して学習の効果を高めるために、児童・生徒の身近な地域の事象を学習素材とすることが望ましいと考えた。また、児童・生徒が、より感動や共感を覚えるように、発達段階を考慮しながら教材の内容や提示の仕方等も工夫することにし、主に次のような点に配慮した。

- ① 地域の自然、伝統文化等を生かして、学習資料として活用する。
- ② 意外性のある教材（驚き→感動）を工夫する。
- ③ 生活体験に基づいた教材を工夫する。
- ④ 発展性（新たな学習意欲の喚起）や深まりのある教材を工夫する。
- ⑤ 個に応じた多様な学習課題を含む教材を工夫する。
- ⑥ 手で触れる等、体感できるような教材を工夫する。
- ⑦ 発達段階に応じた、分かりやすい教材を工夫する。
- ⑧ 他の地域との違いが分かりやすく、一般化できるような教材を工夫する。

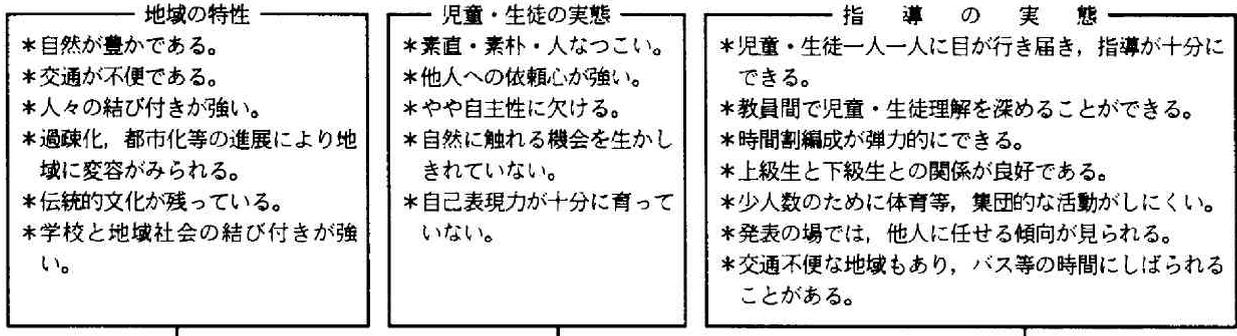
### (2) 課題解決的な学習の重視

児童・生徒の直接体験が不足しているという指摘とともに、社会的な役割体験や心の成長にかかわる体験等、様々な体験を経験していないままに成長しているという面も見られる。そこで、知識や情報を獲得するだけでなく、体験的な活動を通して児童・生徒に多様で豊かな感動を与え、更に、自分自身で課題を解決し、その方法や結果等について表現する学習活動の場を設定する必要がある。特に、次の点について配慮することとした。

- ① 体験的な活動をより重視するために、内容を重点化して時間を確保する。
- ② 学習課題を明確化し、児童・生徒の主体的な取り組みや多様な考え方を生かす。
- ③ 個別指導、グループ指導、一斉指導等の長所を生かした指導形態を工夫する。
- ④ 1単位時間の中に、自力解決の場や集団解決の場を設定する。
- ⑤ 一人一人が自己表現できるような発表の場を多く設定する。
- ⑥ 友達の考えを認め、互いに学び合えるような学習環境づくりを工夫する。
- ⑦ 自己評価、相互評価の機会を設定する。

以上の基本的な考え方に基づいて研究主題に迫ることとした。

### III 研究の全体構想

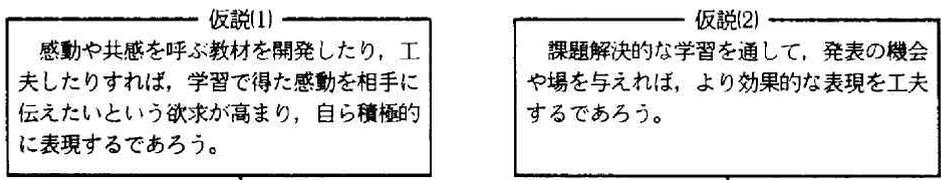


平成4年度研究主題  
 体験的な活動を生かし、一人一人の豊かな自己表現力を伸ばす指導の工夫



—— 研究のねらい ——  
 自分の思い(感動・思考・判断)を言葉によって相手に伝えることができる力を育てる。

研究の仮説



—— 検証事例 ——					
<p>① 小6 社会科 地域の歴史調査や発表活動を通して表現力を高めるための指導の工夫 「武士の世の中」</p>	<p>② 中1 英語科 発表する機会を作り、コミュニケーション能力を育成する指導の工夫 「ジャックと話そう」</p>	<p>③ 小6 道徳 体験的な活動を生かして、郷土を愛する心を育てる指導の工夫 「立ちのき」</p>	<p>④ 中全 ボランティア体験を通して郷土愛や社会性を育てる指導の工夫 「心身障害福祉施設、養護老人ホームでのボランティア活動」</p>	<p>⑤ 小6 社会科 地域の商店やスーパーマーケットの観察・調査を生かして表現力を伸ばす工夫 「商店街と人々のくらし」</p>	<p>⑥ 中1 国語科 筋道を立てて分かりやすく発表するための指導の工夫 「新しい体験を」</p>

\* 仮説検証の視点に基づく授業研究の分析と評価  
 \* 研究のまとめと今後の課題

## IV 研究の内容

### 実践事例・その1

地域の歴史調査や発表活動を通して、表現力を高めるための指導の工夫

小学校 第6学年 社会科

#### 1 単元名 「武士の世の中」

小単元名「江戸時代の郷土の様子……箱根ヶ崎宿を中心として」

#### 2 単元の目標

- (1) 江戸時代の様々な施策によって、国内の政治体制が確立し、産業や交通が発達し、学問や文化が興隆したことを捉えさせる。また、この時代は厳しい統制下の社会であり、このような社会もやがて内外の情勢から崩壊していったことに気付かせる。
- (2) 地図・年表・史料等の資料を活用して、先人の業績や社会の動きを捉えさせる。
- (3) 身近な地域に残っている歴史的な遺跡や文化財の観察、調査等により、自分たちの生活の歴史的背景に関心を持たせる。

#### 3 単元設定の理由

地域歴史素材の教材化は、史料・調査方法等難題が多い。しかし、児童たちは身近な地域素材に興味・関心を持ち、生き生きと学習していく中で、主体的な学習の仕方を身に付けていくことができると考えた。また、聞き取り調査や実地調査等の主体的な体験活動を通して、児童は、地域の人々の温かい心情にも触れ、郷土への認識や愛着を深めることに通じると考えた。

成木（青梅市）等で採れた石灰を江戸に運ぶために開かれた青梅街道と八王子千人同心が、日光東照宮警護のために往来した日光街道とが交差する交通の要衝であった箱根ヶ崎宿を中心に調査活動を行った。そして、調査結果を年表に位置付けたり、地図で確認したり、まとめたことによって260余年も続いた江戸時代の流れの中で、郷土の人々とともに揺れ動いたという事実を知ることができると考えた。この学習を通して、地域を理解し郷土を愛する心情を養うとともに歴史を自分たちの生活との関連させ捉えさせたいと考え小単元を設定した。

#### 4 研究主題との関連

地域に残る歴史教材の調査活動や、調査結果の発表に向けた資料や原稿作り、そして発表という学習過程全体を体験的な活動と捉えた。これらの体験的な活動の中で、児童は、自己表現の必要な場に直面する。例えば、聞き取り調査では、「何をどのようにたずねたらよいか」ということを探り出すために、ねらいに応じて的確な表現を工夫する必要がある。発表に向けての過程では、自分の思いを相手にどのように伝えたときに理解してもらえるか、また、発表で

は、相手に伝えるための声の大きさ、間の取り方、資料提示の仕方等、いろいろな場面の中で表現することについての関心や意欲を高めることができる。児童34名を4班に分け、班毎に豊かな表現に結び付くような助言や励まし、称賛を与えていくという授業の展開で本研究主題に迫りたい。そして、各班のメンバー一人一人が個性を生かした役割を担い、各自が各班の中で貢献できたという喜びや成就感を味わわせたいと考えた。

## 5 学区の様子と児童の実態

開校24年目の本校学区には、神社、仏閣もなく、戦前はほとんどが山林で人家が一軒もなかったような歴史の浅い地域であり、昔を伝えるようなものは見当たらない。住民は他地域から新しく移り住んできた人がほとんどである。お年寄りとの同居も少なく、核家族が多いのも特徴の一つである。都市化の波で、学区にはへき地性はほとんど見られないが、児童の純朴さやバス・電車等の交通の不便さにかろうじてへき地性を見ることができる。児童は、素直で課題に対して真面目に取り組む姿勢がある。しかし、発言するとき、語尾まではっきりと言えなかったり、声がやや小さかったりする等、自信を持って言えない児童もいる。しかし、学級には、お互いの発表を認めあえる雰囲気がある。地域教材の学習については、第5学年の国語の単元「郷土に伝わる話し」で、学区内外での聞き取り活動を経験している。

## 6 指導計画（12時間）

- ① 地域の歴史を調べよう。…………… 1時間
- ② 江戸時代の郷土の歴史の調べ方を考えよう…………… 2時間
- ③ 江戸時代の郷土の歴史を調べよう…………… 3時間
- ④ 発表会の準備をしよう…………… 3時間
- ⑤ 発表会を通して郷土の歴史についての理解を深めよう…………… 2時間（本時1／2）
- ⑥ 調べたことを本にしよう…………… 1時間

## 7 本時の指導

### (1) 本時の目標

- ・江戸時代の郷土の歴史について関心を持ち、理解を深めることができる。
- ・聞き手に分かりやすいように工夫し、資料を整えて発表することができる。

(2) 本時の展開

	学 習 活 動 と 内 容	指 導 上 の 留 意 点	資 料
導 入 5 分	<ul style="list-style-type: none"> <li>・箱根ヶ崎村（宿）を調べるようになったことについて想起する。</li> <li>・江戸時代の長さに気付き、自分たちの発表を年表上で確認する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分たちの育ってきた12年間の長さの比較で考えさせる。</li> </ul>	年表
展 開 30 分	<ul style="list-style-type: none"> <li>・班ごとに調査の概要を紹介し、各班の発表内容の概要を知る。</li> <li>・「江戸時代あれこれ調べ」班の発表。</li> <li>・「日光街道と人々の暮らし」班の発表。</li> <li>・発表の班に対しての質問や感想等を発表する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各班の発表に関心や期待を持たせる。</li> <li>・自分の考えや感想も交えてメンバー全員に発表させる。</li> <li>・一人一人の発表がつながるような工夫をさせる。</li> </ul>	発表 資料 箱根 ヶ崎 村地 図
ま と め 10 分	<ul style="list-style-type: none"> <li>・分かったことを短冊や年表にまとめる。</li> <li>・次回の発表会の予告をする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・発表者は短冊に書き、掲示用の年表に貼る。</li> <li>・聞き手は年表に記入する。</li> <li>・発表した班の称賛と次回の発表班を励ます。</li> </ul>	短冊 個人 用の 年表 他

- (3) 評価
- ・郷土の江戸時代の様子について理解を深めることができたか。
  - ・資料を整えたり、分かりやすいように工夫して発表できたか。

(4) 授業の考察

- ・各班それぞれが、発表に工夫を凝らした。特に人形を使っての発表や劇化しての発表は、児童の個性を生かしたもので、江戸時代の郷土の様子を十分に理解したものであった。
- ・調査の中では、地域のお年寄りからお話を伺う等、人との温かな触れ合いもあった。

8 今後の課題

- ① 人形を使っての発表は、児童たちに好評で、表現の豊かさや表現力を高める上で有効であった。この実践を今後の指導に生かしていきたい。
- ② 発表を主眼にした授業であったが、表現力を更に高めるためには、感想を発表したり発表内容を深めるための話し合い活動を取り入れたりして両面から迫っていく必要がある。

## 実践事例・その2

### 発表する機会を作り、コミュニケーション能力を育成する指導の工夫

#### 中学校 第1学年 英語科

#### 1 単元名 「ジャックと話そう」

・We(You) are ～の言い方 ・What is ～の質問と答え ・「～なさい」(命令文)

#### 2 単元の目標

今まで学んできた主語に加えて、新たにWeや Youが登場し、表現が更に広がっていく。その中で、be動詞の正しい使用方法が英語学習を深めていくポイントになってくる。また、Whatという疑問詞を使うことで相手への問いかけもできる。まとめとして命令文を学習し、発表や応答も可能となり表現力を更に高めることがこの単元の目標である。

#### 3 単元設定の理由

国際化の進展が著しい中で、それに対応するためのコミュニケーション能力の向上が英語科の指導に要求されている。そこで、本校でも一学期に2週間程度英語指導助手(AET)が指導に当たっている。

授業の中で一学期には、アルファベット、単語等の習得に努め、文法的には一般動詞を早い段階に取り上げ自己表現ができるように指導してきた。

外国語の学習への取り組みに対する意欲や態度において、生徒は消極的になる傾向があり、そのことで話し手との会話が不十分になったり、表現力が乏しくなってしまうことにつながる面がある。

このようなことから、次のようなことを向上させたいと考えて本単元を設定した。

- (1) コミュニケーションを積極的に図ろうとする姿勢
- (2) 英語に対する関心や興味
- (3) 英語を用いて会話をすることの喜びや楽しみ

#### 4 研究主題との関連

言語は意志の疎通、伝達等の手段であり、会話においては必ず話し手と聞き手が存在する。英語という授業の中でお互いに発表の機会が与えられることにより、その要素を満たす機会を体験すると、学習してきた内容を更に深めたり、伸ばすことができるものと思う。そのような意味で、英語はまさに「体験的な活動」を通して学ぶものでありそれを生かすことによって「自己表現力を伸ばす」きっかけになるものとする。

## 5 学区の様子と生徒の実態

東は埼玉県に接し、西は青梅坂を越すと旧青梅市街にでる。東西7 km, 南北2 kmの細長い学区である。学校周辺は山に囲まれ、黒沢川の流れており自然に恵まれた環境である。

生徒数168名、6学級の小規模校であり、最近は減少傾向にある。生徒は明るく、素直で人なつっこい反面、積極性、表現力等に乏しいという傾向も見られる。単独の小学校から入学するために人間関係に慣れ親しんでいるが、一方、競争するということが少ない。

保護者も学校に対して協力的であり、学校行事等では協力を惜しまない。地域に開かれた学校として全教職員で教育活動を推進している。

## 6 指導計画

- (1) be動詞（1, 2人称の複数形）…………… 2時間
- (2) What + be動詞の疑問文…………… 2時間（本時, 2 / 2）
- (3) 命令文（一般動詞で始まるもの）…………… 2時間

## 7 本時の指導

### (1) 本時の目標

What is ~? を使った文を適切に表現できるようにする。

### (2) 本時の展開

	学習活動と内容	指導上の留意点	教材
導入 5分	<ul style="list-style-type: none"> <li>・英語で挨拶をする。</li> <li>・前時に使ったプリントをもとにWhat + be動詞の疑問文を確認する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・理解の定着度を確認するとともに本時の内容に興味を持たせる。</li> </ul>	What is ~のプリント
展開 35分	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ペアになって「What is his (her)name?」と「His(Her)name ~」の練習をする。</li> <li>・交互の練習を終えたら、時間を決めて速く言えるように練習をする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ペアは隣か、近くの生徒でつくる。</li> <li>・自然なリズムで会話ができているかを机間指導を通してチェックする。</li> <li>・速さばかりでなく、滑らかに言えるように注意する。</li> </ul>	ペアで会話できるプリント  応用できるようになっ

分	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自然な会話形式になっているプリントで練習をする。</li> <li>・ペアを無作為につくって、全体に発表する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・単なる質問，応答の会話ではないので，内容も理解させる。できれば，暗唱できるように指導する。</li> <li>・相手の質問をしっかりと聞くように注意を促す。</li> <li>・発表について適切な評価を与える。</li> </ul>	ているプリント 一人一人に 絵と名前が 書いてある カード
ま と め 5 分	<ul style="list-style-type: none"> <li>・What is ~ name? をしっかり理解したかどうかを確認する。</li> <li>・次時の授業について確認と，英語で終わりの挨拶をする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・What is ~ name? の理解度と会話の楽しさを与えられたか。</li> <li>・次時の授業について連絡する。</li> </ul>	

### (3) 評価

- ・What is ~ name? をしっかり理解できたか。
- ・生徒は，積極的に会話をしようとしたか。また，会話をすることの喜びや楽しみを感じたか。

### (4) 授業の考察

- ・生徒は，ペアワークを取り入れたことにより，発表する機会が広がり，活発な授業となった。
- ・自分の知っている言葉を使って，自分の考えを相手に伝えようとする姿勢がどの生徒にもみられた。
- ・文法的な内容の理解を，机上の学習だけではなく，会話を通して身に付けるということの大切さを生徒は学んだようであった。

## 8 今後の課題

- (1) 今日の授業をふまえながら，自己表現力を身に付けるためには，英語に触れる機会を多くつくる必要があり，青梅市のAET制度等の活用を積極的に図っていきたい。
- (2) 英語では，単語の習得も必要であり，英語の時間はもとより学校全体の取り組みとして早朝の単語小テスト等の実施も今後考えてみたい。

## 実践事例・その3

### 体験的な活動を生かして、郷土を愛する心を育てる指導の工夫

#### 小学校 第6学年 道徳

##### 1 単元名 「立ちのき」

##### 2 単元の目標

児童たちの住む小河内地区は、ダム建設に伴う住民の立ちのきという苦労の上に成り立っていることを知るとともに、郷土を愛する心情を育てる。

##### 3 単元設定の理由

本学年の児童は、第5学年の時に、国語の時間に地元の「鶴の湯温泉」について調べ、それをまとめて作文にして、運動会で表現「多摩川」を演じた。本年度は、移動教室で清里を訪れた際、ダム建設のため移転した根津さんを訪ねていろいろな話を聞き、学習発表会でダムの建設のために移転しなければならなかった小河内小学校の児童の心の葛藤を描いた「立ちのき」という劇を演じてきた。このように、学区の象徴でもある小河内ダムに関連する学習を積み重ねてきた。

地域のことを調べて先人の苦労を理解することは、地域理解、郷土愛を深めさせるには大変有効であると考えます。道徳の指導としては、歴史的事実に焦点を当てるのではなく、ダムに寄せる人々の思いに焦点を当てるように注意する必要があります。

そこで、本単元を設定することにより、今までの小河内ダムに関連する学習をまとめる意味も含めて、先人の苦労を知り、郷土を愛する心を育てたいと考えました。

##### 4 研究主題との関連

体験的な活動の実践ということで、現在の小河内ダムの湖底で生活していた人々の聞き取り調査を実施した。調査するに当たっては、児童は「自分の知りたいことを聞くためには、どのように質問すればよいか」、「聞いたことをどのようにまとめればよいか」等について話し合った。また、調べたことを基にして、移転当時の人々の心情を考えることにより、積極的に自分の考えを発表することができるであろうと考えた。

今までに実施した本授業に関連する内容としては、作文「鶴の湯温泉」、表現「多摩川」、移動教室「清里」、劇「立ちのき」等で、これらは全て児童の体験的な活動の場面が中心になっており、文章、身体、会話等による自己表現力の育成に役立っていると考えます。

##### 5 学区の様子と生徒の実態

東京都の最西端、秩父多摩国立公園内に位置しており、周りには、東京都の最高峰である雲

取山を筆頭に七つ石山、鷹の巣山、三頭山、月夜見山等、1500～2000メートルの山々に囲まれている。小河内ダム沿いと峰谷川に沿って集落があり、そのほとんどが険しい山地である。

学区域は、約51平方キロメートルの広さがあるが、世帯数約 200戸、人口は約 550人と典型的な過疎地域である。学区内には、図書館等の公共施設もなく、商店も少なく、文化的施設にはあまり恵まれていないが、森や湖といった自然環境は大変豊かである。

ダム沿いの7名の児童は、バス通学であり、他の児童は徒歩通学である。最も遠い児童は、片道1時間半を要する。児童は明るく、素直で、子どもらしく、清掃や奉仕活動にも積極的に取り組んでいる。人数が少ないということからくるマイナス面としては、例えば体育等の集団的な活動や、多数の人の考え方に触れることができないこと等があげられる。その反面、全員が一輪車に乗れることや、水泳が得意なこと、更に学習時に個人指導の時間が多くとれる等の利点がある。表面的には、おとなしそうに見えるが、粘り強く、芯のしっかりしている児童が多い。しかし、比較的变化の少ない生活のためか、競争心や自主性に欠ける面があるのは否めない。

## 6 指導計画

- (1) 作文「鶴の湯温泉」・表現「多摩川」・移動教室「清里」・劇「立ちのき」
- (2) 家庭、地域での聞き取り調査
- (3) 調べてきたことから、地域に対する考えを深める……………本時（1／1）

児童が調べてきた移転当時の人々の思いをまとめた資料を基にして、先人の苦労を考える。

## 7 本時の指導

### (1) 本時の目標

郷土に対する興味や関心を持ち、先人の苦労に共感して郷土を大切にすることを育てる。

### (2) 本時の展開

時間	学習活動と主な発問	指導上の留意点
導入 5分	<ul style="list-style-type: none"> <li>・百周年で発表した劇のビデオを鑑賞する。</li> <li>・学習発表会の感想を発表する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ビデオで発表会の時の感動を再起させる。</li> <li>・全員に指名する。</li> </ul>
展開 35分	<ul style="list-style-type: none"> <li>・配られた資料を、内容を考えながら読む。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童が調べてきたことをまとめた資料を配る。</li> </ul>

<p>展開</p> <p>35分</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教師の発問に対して答える。</li> </ul> <p>&lt;移転の不安&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・移転するとき心配したことは何だったか。</li> <li>大人と子供に分けて考えてみよう。</li> </ul> <p>&lt;郷土に対する愛着&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・佐野さんは、どうして水が来るまで移転しなかったのでしょうか。</li> </ul> <p>&lt;大勢の人の幸せのために&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・小河内の人々は、なぜ、最終的にダム建設に同意したのでしょうか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・指名して音読させる。</li> <li>・自由に自分の考えを発表させる。</li> <li>・資料を基にして考えさせる。</li> </ul> <p>・今までの体験（劇、聞き取り調査等）を基に考える。</p> <p>・学習班で話し合わせて、発表させる。</p>
<p>まとめ</p> <p>10分</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教師の説話を聞く。</li> <li>・「故郷」を歌う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小河内という地域について静かに考えさせる。</li> <li>・CDを用意する。</li> </ul>

### (3) 評価

郷土の先人の苦勞に共感することができたか。

### (4) 授業の考察

本学級は、少人数のために、児童の意見が少なかったり、考え方に広がりが見られない等の課題があった。しかし、今回の学習では、地域素材を扱ったことや児童が調べてきた資料を使ったこと等の理由により、全員が積極的に考え発言することができた。この経験を参考にして、少人数学級のよさを生かして課題の解決を進める考えである。

### 8 今後の課題

本授業での経験を、今後の学習活動に生かすとともに、地域行事等への積極的な参加を促したり、小河内ダムについてもっと詳しく学習する等、主体的な取り組みに進めていきたい。また、他の地域素材を積極的に学習に取り入れて、児童の心の内面に訴えかける授業を推進し、地域に愛着を持つ児童を育てたい。

## 実践事例・その4

### ボランティア活動を通して、郷土愛や社会性を育てる指導の工夫

#### 中学校 全学年

1 活動名 「心身障害福祉施設、養護老人ホームでのボランティア活動」

#### 2 活動の目標

- (1) 心身に障害のある人達や養護の必要なお年寄りとの交わりを通して、自己をみつめ生き方を考えさせ、人間愛の心を育てる。
- (2) 自らがやるべき課題を把握して、自主的、主体的に取り組む態度を養う。
- (3) 施設で働く方々とともに活動し、人間関係や社会性を高める。
- (4) この体験を通して、地域社会及び社会福祉へのかかわりを考えさせる。

#### 3 本活動のねらい

本校は、全校生徒数11名のへき地小規模校である。少人数の中で慈しまれて育ったためか、他人や大集団へのかかわりが苦手な生徒が多い。また、友達同士の人間関係に厳しさがなく、積極性に欠け、自主性や主体性の欠如が指摘されている。しかし、生徒は、卒業と同時に、通学、通勤の関係で親元を離れて生活していかなければならないという厳しい現実がある。

したがって、教育活動全体を通してどんな環境や条件の下でも生き甲斐を発見し、困難に耐え、主体的に生きていける能力や資質を身に付けさせることを課題にしている。特に、自ら進んで物事に挑んでいく強い意志や意欲、互いに切磋琢磨し、自己を確立していく社会性の育成は、本校の重点課題である。そこで、ボランティア活動を通して、人と人のかかわりを学び、豊かな社会性の育成を図るために、学校全体として取り組んでいる。

#### 4 研究主題との関連

本事例は、「社会性を身に付け、積極的に生きる力を育てたい」という地域と学校の願いを基に、ボランティア活動を通して実践しているものである。

- (1) 年間を通した継続的な活動であり、特に社会福祉施設での体験活動の一貫した取り組みは、生徒のボランティア活動への意欲を高めることにつながっている。
- (2) 夏季作業中の体験活動は、事故への対応を十分考慮して、保護者、施設との連携を密にして、生徒の主体性を生かすように計画した。
- (3) 体験したことを発表することにより、ボランティア精神の内面化を図るとともに、自己表現力の育成にも重点を置く。
- (4) 社会福祉施設の方を発表会や文化祭に招待したりお年寄りと文通する等、小規模校にお

ける人と人とのかかわりを重視し、生涯学習社会に向けた取り組みとして位置付けている。

### 5 学区の様子と生徒の実態

本校は東京都の最西端部に位置し、海拔 555メートルにある一級へき地校である。四季折々に変化する奥多摩湖と山々に囲まれた豊かな自然の中であって、一時は生徒数も百数十名という時代もあったが現在では過疎化が著しい。生徒は、バスの便が少ないために自転車通学をしている。

また、小学校入学時から中学校卒業時まで同じ友人と同じクラスで生活するために人間関係の固定化が見られ、のんびりとしている面もある。そのためか、友達との競争やトラブルの経験や失敗の経験も少ない。更に、教師との関係においてもお互いに知り尽くしているという安心感からか、依頼心が強く場面に応じた適切な接し方や話し方に課題を残す生徒も見られる。

### 6 夏季休業中の指導計画

施設を訪問するに当たっては、次のように各班ごとに施設訪問のねらいを明確化している。

施設名	琴 清 苑	期間・時間	平成4年8月11日(火)～13日(木) (午前8時40分～午後4時30分)	
持ち物	.....			
班 長	A(男)	班 員	C(男) , E(男)	
副班長	B(女)	班 員	D(女) , F(女)	
活 動 目 標	班・お年寄りに親切に接する。・お年寄りと楽しく過ごし、しっかりと仕事をする。			
	A	車椅子を慎重に扱う。	C	お年寄りとできるだけ多く話をする。
	F	お年寄りと仲良くする。	E	いろいろな仕事に積極的に取り組む。
	D	迷惑をかけないように仕事をする。	B	お年寄りに笑顔で接する。
内 容	・食事配膳及び介助補助, 処遇補助, 厨房補助 ・リハビリ, ホーム喫茶補助, ラジオ体操		注 意	・正しい言葉遣いをする。 ・不安を与えない行動をとる。

## 7 本時の指導

### (1) 本時の目標

- ・施設に入居しているお年寄りとの交流を通して、自己をみつめ生き方を考える。
- ・施設で働く人々とともに活動し、人間関係を高め、社会性を養う。
- ・各自の課題を基に、自主的、主体的な取り組みができるようにする。

### (2) 本時の展開

時 間	<一日目>	<二日目>	<三日目>
8:40～	・ラジオ体操	・ラジオ体操	・ラジオ体操
8:50～	・朝の申し送り	・朝の申し送り	・朝の申し送り
9:00～	・施設説明		・厨房補助, 処理補助
9:30～	・ビデオ学習	・リハビリ補助	
11:45～	・食事配膳, 介助補助	・食事配膳, 介助補助	・食事配膳, 介助補助
12:30～	・昼食, 休憩	・昼食, 休憩	・昼食, 休憩
13:30～	・処理補助, 厨房補助	・ホーム喫茶補助	・リハビリ補助, 反省会
16:30	・終了	・終了	・終了

### (3) 評価

- ・各自の課題を進んで実践することができたか。
- ・施設に入居しているお年寄りや施設の人々と十分にお話できたか。
- ・お年寄りの気持ちをどのような所で感じることができたか。
- ・毎日の様子を感想文にまとめることができたか。

### (4) 考察

- ・生徒は、進んで自分の課題に取り組み、お年寄りや施設の人々から感謝された。また、心あたまる手紙もいただいた。学校では見られない生徒のよさを発見する場面もあった。

## 8 今後の課題

- (1) 生涯学習社会の到来を考えると、体験的な活動を単発的に終わらせることなく、教科や道徳とのかかわりを深め、ボランティア活動を一層充実する必要がある。
- (2) この成果を地域社会の中で生かせるように家庭、地域との連携を図っていく必要がある。

## 実践事例・その5

地域の商店やスーパーマーケットの観察・調査を生かして、表現力を伸ばす指導の工夫

小学校 第3学年 社会科

### 1 単元名 「商店街と人々の暮らし」

小単元名 「スーパーマーケット」

### 2 単元の目標

- (1) 日常生活における買い物の経験や買い物調べ等を通して、地域の商店や商店街とのかかわりが深いことに気付く。
- (2) 近くの商店やスーパーマーケットを調べて、販売について工夫していることを理解するとともに、消費生活を通して他の地域や外国等とのつながりを理解させる。
- (3) 観察・調査した事象を関係的に見たり、既習の事柄から人々の生活について類推したりする能力を育てる。

### 3 単元設定の理由

一学期は、「自分たちの生活している町」の学習で、地域を歩いて、自分の目で確かめながら学習を進めてきた。そして、社会科の学習に対して、興味や関心を高めるために、体験的な活動を随所に取り入れてきた。

本単元でも、児童自らの足で歩き、目で見て、耳で聞いて、調べるといった一連の活動を多く取り入れてきた。そこで、発表意欲や表現力を伸ばすために、例えば、次のような場面を設定した。

- ・家の人に買い物インタビューをする。
- ・スーパーマーケットでの聞き取り調査をする。
- ・テレビレポーターになって発表する。

買い物調べを通して、人々とのかかわり方を知るとともに、見聞したことを整理・発表する過程で自己表現力を高めるために本単元を設定した。

### 4 研究主題との関連

体験的な活動を通して、豊かな自己表現力を身に付けるためには児童が体を通して学ぶことができる活動や、共同し協力して学ぶことができる学習場面を工夫する必要がある。そのために、本単元では、スーパーマーケット見学、商店街調べ、お客さんへの聞き取り調査を実施することによって学習への興味・関心を高めることができると考えた。更に、調べたこと、聞いたことを文章や図、絵にまとめ、理解した内容を発表することによって一人一人の自己表現力

を伸ばすことができると考えた。

## 5 学区の様子と児童の実態

全校児童数65名、6学級の小規模校である。学校の地域は山間部に位置しており、自然環境には恵まれた場所にあるが、児童数は年々減少する一方である。児童は明るく、素直な子が多いが、積極性や表現力にやや欠ける面がある。保護者は極めて学校に協力的である。教師や地域の人々の目が比較的届きやすい面がある反面、ともすると過保護になりがちなので、いかにして温かさとともに厳しさを培うかという課題がある。

本学級の児童数は、男子6名、女子2名、計8名である。活動的な児童が多く、家庭的な雰囲気の中で気楽に話をしている反面、自己中心的な児童もいるので、集団としてのまとまりを更に身に付けさせたいと考えている。

## 6 指導計画（10時間）

- (1) 自分たちの買い物経験を話し合い、家の人の買い物の工夫を調べる。…2時間
- (2) スーパーマーケットの見学の計画を立てる。……………1時間
- (3) スーパーマーケットの見学や聞き取り調査をする。……………2時間
- (4) 店の販売の工夫を話し合う。……………2時間（本時2/2）
- (5) スーパーマーケット新聞を作る。……………2時間
- (6) 新聞の発表会を行う。……………1時間

## 7 本時の指導

### (1) 本時の目標

- ・スーパーマーケットの観察、調査をもとに、店での販売の工夫を理解する。
- ・スーパーマーケットで見たり、聞いたりしたことを、分かりやすく発表する。

### (2) 本時の展開

	学 習 活 動 と 内 容	指 導 上 の 留 意 点	資 料
導 入 5 分	・スーパーマーケットの見学の作文を読む。	・見学の様子を想起させる。	作文

展 開 30 分	<ul style="list-style-type: none"> <li>・店内の陳列の様子について発表する。</li> <li>・働いている人の様子を発表する。</li> <li>・どんな機械や設備があったかを発表する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・店内図を貼る。</li> <li>・スライドを見て確認させる。</li> <li>・レジ操作や大きな冷蔵庫の中に入ったこと感想を交えて発表させる。</li> </ul>	店内図 スライド 写真
ま と め 10 分	<ul style="list-style-type: none"> <li>・スーパーマーケットでは、品物売るためにいろいろな工夫をしていることをまとめる。</li> <li>・次時の予告をする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・発表したこと、聞いたことをワークシートにまとめさせる。</li> <li>・分かりやすく発表できた児童を全員で認めあう。</li> </ul>	ワークシート

### (3) 評価

- ・スーパーマーケットの観察や調査では、店の販売の工夫が理解できたか。
- ・スーパーマーケットで見た、聞いたことを学級で分かりやすく発表できたか。

### (4) 授業の考察

- ・直接体験（見る、聞く、触れる等）によって、児童の興味・関心が高まり、更に学習のねらいに沿った調査ができた。このことが、次の発表への意欲を高め、自ら調べたことや感じたことを発表する自信になって表れていた。
- ・事前指導では、交通安全やお店の人の事前打合せ等を中心に、十分な時間をかけたのでお店の人の親切な対応への感謝の気持がよく現れていた。
- ・校外での授業では、商店やスーパーマーケットとの十分な事前打合せが大切である。今回は事前打合せを十分に行い、当初の予定通り実施できた。

## 8 今後の課題

- ・児童の観察や調査の真剣な取り組みを、他の教科等にも生かしていく必要がある。
- ・自分の発表だけでなく、友達の発表を聞き、それを基にして話し合いを深める授業を普段から指導していく必要がある。
- ・楽しい授業作りには、教材の内容を精選することも必要である。

## 実践事例・その6

### 筋道を立てて分かりやすく発表するための指導の工夫

#### 中学校 第1学年 国語科

##### 1 単元名 「新しい体験を」

##### 2 単元の目標

- (1) いろはかるたの「ことわざ」の解釈を、自分の体験をふまえて発表できるようにする。
- (2) 「報告文」を書くに際して、事前指導の「作文」を読んだ感想文を、主語、述語の忘れや離れ過ぎに注意し、文脈の整った文章として書くことができる。
- (3) 夏休みの体験を、5W1Hの法則に合わせて発表できるようにする。

##### 3 単元設定の理由

小学生の時代には、積極的であった発言や発表等の活動が、中学生になると急に少なくなり、積極的になる傾向がある。これは、一般には人間の成長や発達段階における、思春期の一つの特徴であると言われており、指導する上で配慮しなければならない点である。しかし、中学校のこの時期は、人間の成長段階の中でも物事を真剣に捉えたり、深く考えたり、心の葛藤を繰り返す時でもある。したがって、この時期に生徒の心に残る授業を通して、心の底から自分の考えを発表できるという学習を進めることは大切であり、国語科での課題の一つでもある。

どんな表現でも、表現に至るまでには基本的な手順を踏むと考えられる。中学校の表現活動において、この基本的な手順を踏ませ、その流れをしっかりと身に付けさせておく必要がある。この「基本的な手順」は、文の成分に留意し文章構成5W1Hの法則に合わせた文章作成及びその発表であり、筋道を立てて分かりやすく発表することを目指して本単元を設定した。

##### 4 研究主題との関連

「ことわざ」の意味を調べ、自分の体験をふまえてより分かりやすく発表することや、「作文」を読んだ感想を文法事項の約束事をふまえて表現することは、仮説(2)の「課題解決的な学習」と捉えることができる。夏休みの直接体験をクラス全体の前で筋道を立てて発表させることは、仮説(2)の「発表の機会や場を与える」ことに通じる。更に、この発表は、各人が自分の感動を自分の言葉で発表する音声言語活動であるから、研究主題の「一人一人の豊かな自己表現力を伸ばす」ことにつながっていくと捉えたい。

##### 5 島の様子と生徒の実態

四方が海に囲まれており、中央には活火山の三原山がそびえ、自然も豊富である。椿の木が島内に約5万本もある。産業は、花づくりや野菜づくり等の農業、漁業が中心で観光地として

も有名である。しかし、若者の働く場所が少なく、島内の都立高校を卒業すると90%以上が島外に就職している。島内を北部、中部、南部に分けており、支庁、役場、N T T、銀行等がある中部は都市化しており、消費社会や情報化社会の影響を受け、都会化された行動や考え方を生み出している。

生徒は明るく、人なつこくて学年間の上下関係の意識も薄い。友人関係は、保育園から一緒の集団で学んできており、人間関係の固定化が目立つ。生徒は、大人と同様に地元意識が強い。当地の方言もあるが、友達同士の話し方と目上の人との話し方との差異があまりなく、敬語表現の苦手な傾向も見られる。

## 6 指導計画（6時間）

- (1) 「ことわざ」の学習（以下2時～6時についても時間の頭に学習する。）  
 作文を読み、200字程度の感想文を書く。……………1時間
- (2) 文法の学習。4つの基本文型を理解する。主語・述語に関するいろいろな「悪文」を示し、それを正しく書き直す。……………1時間
- (3) 文法の学習。修飾語の使い方の悪い文を正しく書き直す。  
 字数制限のある短文を作成する。……………1時間
- (4) 第1時で書いた感想文を推敲する。夏休みの体験を5W1Hの法則に合わせて原稿用紙1枚程度にまとめる。……………1時間
- (5) 夏休みの体験を書いた文章を基に、体験談の発表の練習をする。  
 一人一人発表する。……………1時間（本時）
- (6) 夏休みの体験を発表する。……………1時間

## 7 本時の指導

- (1) 本時のねらい
  - ・5W1Hの法則に合わせて書いた文章が法則にあった文章になっているかどうかを再度推敲し、ペアを組んで発表の練習をする。
  - ・発表する場合の基礎的な技能に従って発表できるようにする。
- (2) 本時の展開

	学習活動と内容	指導上の留意点	備考
	・「ことわざ」の学習	・自分の体験をふまえて説明させ	

導入 15分	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 班に分かれ、本時の学習活動についての説明を聞く。</li> <li>・ 班内で発表の練習をするペアを決める。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 一人一人前に出て発表することや、テープに録音することを伝える。</li> <li>・ ペアは向かい合った者同士。</li> </ul>	
展開 30分	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 発表する場合の基礎的な技能を学ぶ。</li> <li>・ 発表するための基になる文章を各人が声を出して読み、5W1Hの文章かどうかを再度確認する。</li> <li>・ ペアで発表の練習をする。(基になる原稿は見ないようにする)</li> <li>・ 出席番号の順、男女交互に前に出て発表する。</li> <li>・ 発表を聞いた後、感想や意見を述べあう。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 基礎的な技能(臆せず話す、はきはき話す、文の形で話す、順序に従って話す、分かりやすく話す、効果的に話す)について色上質紙に書いたものを黒板に張り出し、発表と感想や意見を述べる場合に心にとどめるようにすることを強調する。</li> <li>・ 身振り手振りも入れて発表することも指導する。</li> <li>・ 感想や意見は、最低2人以上になるように配慮する。</li> </ul>	「話すことの基礎的な技能について」書いた用紙。
まとめ 5分	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 発表のあったものについての評価をする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 次時の発表に生かせるような指導をする。</li> </ul>	

### (3) 評価

- ・ 5W1Hの法則にあった文章が書けたか。発表する場合の基礎的な技能に従って発表できたか。

### (4) 授業の考察

- ・ 多くの生徒は5W1Hの法則にあった文章を書いたが、発表では慣れていないためか臆する生徒がいた。しかし、多くの生徒は元気よく発表できた。

### 8 今後の課題

- ・ 原稿を暗記する生徒もいたが、練習に時間をかけ練習の仕方を工夫する必要がある。

## V 研究のまとめと今後の課題

今年度は、東京の西部山間・島しょ地域の特性やそこに住む児童・生徒の実態を探り、へき地教育の抱えている共通課題を明らかにすることから研究を進めた。その結果、「自己表現力の育成」を本分科会の共通課題と捉え、それに迫る手法として「体験的な活動」を取り入れた授業研究を中心に継続した研究を進めてきた。そこで、研究主題に迫るために、次の2つの仮説を設定した。

- (1) 感動や共感を呼ぶ教材を開発したり、工夫すれば、学習で得た感動を相手に伝えたいという欲求が高まり、自ら積極的に表現するであろう。
- (2) 課題解決的な学習を通して、発表の機会や場を与えれば、より効果的な表現を工夫するであろう。

前記の検証事例は、この2つの仮説を同時に満たすことを望ましいとしながらも、学習内容によっては(1)、(2)のいずれかに焦点を絞って検証を進めてきた。その結果、次の成果を得ることができた。

### 1 仮説(1)における研究の成果について

- ・昔の地域の人々の話を聞いた結果、共感を覚え、その気持ちを演劇等を通して積極的に表現しようとした。(検証事例3)
- ・ボランティア活動を経験した結果、新たな人間愛が心の中に芽生え、自分の思いを相手に伝えたいという欲求が高まった。(検証事例4)
- ・体験的な活動を取り入れた結果、調べた内容を積極的に発表しようとする態度が身に付いてきた。(検証事例5)

### 2 仮説(2)における研究の成果について

- ・適切な発表の場を与えることにより、表現方法に様々な工夫が見られた。(検証事例1)
- ・発表の場を多く与えることにより、活発に自己表現しようとする態度が身に付き、更に効果的な表現方法を探究しようとする姿勢が見られた。(検証事例2)
- ・体験的な活動と教材を関連付けることによって、発表意欲が高まり、効果的な表現の工夫が見られた。(検証事例6)

今後の課題として、次のことがあげられる。

- (1) 具体的にどのような表現方法を用いれば豊かな表現力を身に付けられるかを工夫したい。
- (2) 地域教材の開発に取り組むとともに、有効な活用方法を検討していく必要がある。
- (3) 自己表現力の育成は、組織的、意図的に教育活動全体の中で身に付ける必要がある。